



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1745 回例会

平成 25 年 5 月 13 日(月)

18:30～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. 国歌斉唱

3. ロータリーソング

「君が代」

「奉仕の理想」

4. ゲスト紹介

米山奨学生 AHMAD SYAKIR BIN AZMI

アーマド・シャキル・ビン・アズミ 君

5. 出席報告

会員総数 53 名 出席者数 38 名

出席率 71.70% 前回修正出席率 73.58%

6. 会長スピーチ

会長 花田 宗弘 君

米山奨学生のシャキルさん、よくお出で下さいました。昨日はタンポポの体験カヌーのイベントに参加頂きお世話頂いた皆様御苦労さんでした。お陰さまで良い天候に恵まれ楽しい 1 日を過ごすことが出来ました。和歌山新報の取材もありましたので近々掲載される予定です。アトラクションとして紀美野町から来て頂きました和太鼓のグループ、海辺の景色と調和して素晴らしい演奏をして頂きました。



今年度も残り少なくなってきましたが、まだまだゆっくりとしておられません。今月の行事予定は 18 日に新入会員のための研修委員会、19 日には地区協議会、21、22 日は鈴木サミット、と続きます。22 日の鈴木自動車会長兼社長の講演会は企業の海外進出の話を開けるので面白いと思いますので多数参加して頂ける様お願い致します。

また、今月中には第 2 回目の IDM があります。来年度の活動方針に参考になるような意見をどんどん出して頂きたいと思います。

7. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○メーキャップ

谷脇良樹 君和歌山東 RC 4 月 25 日

○例会臨時変更のお知らせ

粉河 RC

5 月 15 日(水)→ 5 月 15 日(水)

12:30～ 旧名手宿本陣(移動例会)

外部卓話「名手宿本陣について」

5 月 22 日(水)→ 5 月 22 日(水)

12:30～ R24 打田・黒土時計塔周辺

(奉仕作業)

那智勝浦 RC 5 月 16 日(木)→ 5 月 12 日(日)

家族親睦会 瀬流荘

有田 2000 RC 5 月 22 日(水)→ 5 月 18 日(土)

移動例会(座禅)

和歌山南 RC 5 月 24 日(金)→ 5 月 23 日(木)

19:00～ ダイワロイネット H 和歌山

和歌山北 RC 6 月 3 日(月)→ 6 月 2 日(日)

12:00～ 白浜エクシブ(親睦家族例会)

6 月 17 日(月)→ 6 月 17 日(月)

19:00～ H グランヴィア和歌山 6F

(最終夜間例会)

○休会のお知らせ

和歌山北 RC 6 月 24 日(月)

○5 月 ロータリーレート

1 \$ = 98 円

8. 委員会報告

○雑誌広報委員会

委員長 宮田 敬之佑 君

ロータリーの友 5 月号「あなたはなぜロータリアン？」や「ロータリーアットワーク」など、是非、読んでください。

○社会奉仕委員会

委員長 中村 俊之 君

5 月 12 日(日)のたんぽぽの会との交流会、晴天のもと大成功のうちに終わることができました。



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：花田 宗弘

幹事：中西 秀文

SAA：那須 正志

<http://www.kainaneast-rc.jp>E-mail: info@kainaneast-rc.jp

○一般ニコニコ

平尾 寧章君

5月18日にクラブ研修委員会を行います。講師として谷脇、中西、平尾が勤めます。多くの出席をお願いします。

吉田 昌生君

鈴木フォーラムにご参加ください。鈴木自動車の社長の講演もあり、沢山の方が来ます。



小椋 孝一君

5月10日付けで紀美野町の議長に就任することになりました。

田岡 郁敏君

たんぼぼの会に家族4人で参加させていただき、楽しかったです。

楠部 賢計君

首相官邸に行ってきました。30年前に戻って総理大臣になって官邸の主になりたかった。

困の苦しみのない状態を意味しています。

しかし、「平和」とは何か、どういう可能性があるのかで定義することもできます。「平和」は、思想と言論の自由、意見と選択の自由であり、そして自らの意思で決定をすることができることです。安全で安心できる未来を意味し、安定した社会での人生と家庭を意味するとも言えます。もっと抽象的に言うと、「平和」とは幸福感や心の平穩、静けさであるとも言えます。

「平和」に向けてロータリーができること

私たちがどのようにこの言葉を使おうと、私たちがどのように平和を理解しようとして、ロータリーは、私たちが平和を実現することを後押ししてくれます。ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに、それが最も必要とされている地域で私たちが応えることができるよう助けてくれます。また、友情、絆、思いやりといった、私たちの心のニーズにも応えることができます。さらに、紛争の要因を減らすことで、最も伝統的な意味での平和を築いてくれます。つまり、人や国の間の友情と寛容を育んでくれるのです。

「平和」をどのように定義するにしても、私たちにとって平和が何であったにしても、私たちは奉仕を通じて、平和をもっと現実近くに近づけることができます。平和は、どのような意味で捉えるにせよ、ロータリーの現実的な目標であり、実現可能な目標です。平和は政府による協定や英雄的な取り組みによって実現できるものではなく、日常のささやかな行為の積み重ねの中から見だし、そして、達成できるものなのです。

平和な世界を築くというロータリーの目標に向けて、また「奉仕を通じて平和を」築く活動を実践するため、皆さんのご尽力に心から感謝申し上げます。



== 5月のメッセージ ==

平和はロータリーの実現可能な目標

2012-13 年度 R I 会長

田中 作次 氏

朋友ロータリアンの皆さん、国際ロータリー会長に指名していただいた時、私の年度のテーマは、平和に焦点を当てようと考えました。3回の平和フォーラムを計画したのは、ロータリアンの皆さんに平和について考え、語り、平和な世界を築く方法についてアイデアを分かち合う機会を持っていただきたと考えたからです。今月、その3回目である世界平和フォーラムが、広島で開催されます。



「平和」とは

私たちは毎日「平和」という言葉を耳にします。しかし、私たちのほとんどが、平和とは何なのかについて考えることはありません。最も単純なレベルでは、「平和」ではない状態を考えることで定義することができます。つまり、戦争や暴力や恐れのない状態のことです。飢餓の危険、または迫害、あるいは貧

「ロータリーの友」の歩み

ロータリーの心を伝えつづけ結びつづけて 50 年

1952 (昭和 27) 年 4 月、第 60 地区の大会が開催されました。同年 7 月に迎える新年度 (1952—53 年度) から、日本の地区は、東日本と西日本の 2 地区に分割されることに決定されていましたので、主催者も参加者も、ともに深い感慨をもって臨んだ特別な地区大会でした。



1953 年 1 月号
(創刊号)

この地区大会では、いくつかの問題が話し合われましたが、その 1 つに、日本の 2 地区で共通の雑誌を発行するとの決定がありました。これまで共に活動をしてきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有化するための機関誌として、企画されたのです。第 1 回の準備会は大阪で、当時の星野行則ガバナーと露口四郎氏 (共に大阪ロータリークラブ) が幹事役となつて、東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブの代表者が出席して開催されました。

『ロータリーの友』と命名



1970年2月号

新しい雑誌について本格的にいろいろなことが決められたのは、同年8月16日、岐阜市の長良川河畔にあった大竹旅館での会合においてです。1953（昭和28）年1月から、毎月発行すること、価格を50円とするが、広告を取って100円分の内容のある雑誌とすること、名前を『ロータリーの友』とすることなどが決定しました（岐阜での会合の様子は、本誌横組み20～22ページの「ロータリーの友創刊の頃」と題した座談会に掲載されています）。

また、この会合では、新しい雑誌を縦書きにするか横書きにするかで意見が分かれ、全会員による一般投票を行ったところ、二対一の割合で、横書きが採用されることになりました。戦後10年もたっていなかったという時代背景を考えると、この結果は、当時のロータリアンが、いかに先進的な考えをもっていたかを知ることのできるエピソードです。

岐阜での会合で、広告を取ることが決定したものの、当初は発行部数が3,300部にすぎなかったこと、また、戦後の混乱が少し落ち着いたというものの、まだまだ経済的には厳しかったこともあり、広告のスポンサーを見つけることは容易なことではありませんでしたが、創刊に携わったロータリアン自らが走り回り、苦勞して広告を取ったという逸話が残っています。創刊号の富士山の表紙は、その後、『ロータリーの友』にも、何回か写真を載せましたので、ご存じの方も多いと思いますが、実はこの表紙、1月号から6月号まで、絵柄は全く同じものでした。北斎の「凱風快晴」という題の作品です。ちなみに、8月号から9月号は、広重の「舞子の濱」という作品で、表紙の写真や絵が毎月変わるようになったのは、創刊翌年の4月号からです。毎月同じ絵柄の表紙とはいえないものの、それぞれの色が随分違っているのは、デザインでしょうか、当時、カラー印刷の技術が進んでいなかったためでしょうか。

最初、横書きでスタートした『ロータリーの友』ですが、その後、俳壇、歌壇など、横組みでは具合の悪い欄が始まり、これらを縦書きで入れることになりました。ページを開いていくと、横書きの中に、突然縦書きのページが出てきて読みにくいということで、1972（昭和47）年1月号から、左から開けると横書き、右から開くと縦書きの現在のような雑誌の形になりました。このときの表紙は、陣羽織で、横書きは前から見たところ、縦書きは後ろから見たところ、というように、両面表紙の特徴を生かした面白いものになっています。



1972年1月号

国際ロータリー公式地域雑誌に

その後、1年間の試験期間を経て、国際ロータリー公式地域雑誌になりました。公式地域雑誌の要件はいろいろと定められており、また、時代とともに多少変化をしています。要件の1つに、「毎年、年度の始まる7月号には、「国際ロータリー（RI）会長の写真を掲載する」ということがあります。試験期間の始まった1979年の7月号が、RI会長の写真を表紙に掲載した最初です。

したがって、日本で2人目のRI会長である向笠廣次氏（1982—83年度）は、表紙になっていますが、それ以前にRI会長に就任した東ヶ崎潔氏（1966—67年度）は、RI会長としては、残念ながら表紙に載っていません。ただし、それより早く、ガバナー時代の1957（昭和32）年8月号に、ほかのガバナーとともに登場しています。



2001年11月号

はじめ、表紙以外はモノクロのみでしたが、1986（昭和61）年から、「ロータリー・アット・ワーク」（横組み写真のページ）のトップの取材ページ（当時は同欄の2～3ページが取材記事）をカラーに、縦書き、横書きの巻頭各8ページを二色刷りにしました。写真のページをカラーにし、2色刷りのページを入れると、当然印刷費は高くなりますが、この費用を捻出するために、用紙の厚さや種類を変更して用紙代を節約するなどの工夫をしています。時代の変化に合わせ、カラーページも増えています。

次の50年に向かって

創刊50周年を迎えるに当たり、これまでの良い伝統は継続しながら、新しい50年のスタートにふさわしい新鮮な『ロータリーの友』とはどのようなものか、2001年秋から検討に入り、年度初めの2002年7月号から誌面を一新しました。サイズをB5判（天地256ミリ×左右182ミリ）からA4変型判（天地280ミリ×左右210ミリ）に変更。カラー写真のページを巻頭にもってくるなどして、親しみやすい『ロータリーの友』を目指しています。これからも、『ロータリーの友』の歴史が刻まれつづけることでしょう。



1987年1月号



2002年7月号

ロータリーの友を読もう

Let's read the "friend in the rotary".